

第 24 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地
電話 (0545)55-2851
(0545)55-2852
FAX (0545)53-4633

消防団だより

平成二十六年を迎えて

富士市消防団 団長 鈴木正美 編無ヶ淵 在任



輝かしい新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

消防団員の皆様には、常日頃地域の安心、安全を守るために、ご尽力をいただいていることに、心から感謝申し上げます。

平成二十六年の年頭を飾る「富士市消防出初式」が多数のご来賓、市民の皆様をお迎えし盛大に挙行出来ましたことに、心から御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、七月に富士支部消防操法及び訓練式式査閲大会が、富士宮市芝川スポーツ広場で開催され、みごとポンプ車操法の部で優勝し、九月に県消防学校で開催された県消防操法大会に、富士支部代表として出場することができました。

この大会に向けて長い間訓練に励んでくれた選手の皆様、また支えていただいたご家族の皆様、心から感謝申し上げます。九月の秋晴れの下、消防団員ソフトボール大会が実に四年ぶりに実施され、楽しい一日を過ごすことができました。

十一月の消防まつり、この日は朝から雨が心配され、途中から降られてしまいました。予定通りの内容で終了できました。消防職員の皆さん朝早くからお疲れ様でした。市民の皆さん多数のご来場、ありがとうございました。

十一月二十五日、消防団百二十年・自治体消防六十五周年記念大会が東京ドームで開催され、富士市消防団本部・分団長行政視察研修を兼ねての参加となりました。平成二十五年も終わり、消防団活動一年間の内には、火災出場や諸行事、そして訓練なども数多くあります。大変なときもありますが、このような活動を通じて、大勢の方々との出逢いがあり、助けられることや、人生の勉強になることもたくさんあります。

今、我々消防団を取り巻く社会環境が大きく変化している状況において、地域に密着した活動を行う消防団に対する地域住民の期待は、今後ますます大きくなると思われ、全国的に消防団員数が減少しております。富士市消防団におきましても今後の団員の確保に努めていかなければなりません。

私事になりますが、私も入団して早四十年余りになります。思い出に残ることは数多くありますが、昭和六十年の県査閲大会へ富士支部代表で訓練式式の指揮者として出場し、草薙総合グラウンドに立てたことは印象深いです。

これまで務めることができたのは、諸先輩や、仲間の支援があり、また家族の協力があったからこそです。心から感謝いたします。おわりに、消防団員の皆様には、これからも健康に留意され、尚一層のご活躍をお祈り申し上げます。



議長賞「ヘリコプター空中消火」荻原 真



市長賞「消防音楽隊 出番近し…」山崎友一



消防長賞「映」福島治男



防火協会賞「放水の後で」松本一郎



消防団長賞「誉れ」佐野 登

消防団120年 自治体消防65周年 記念大会 in 東京ドーム



大会のローグは、「消防その愛と力」とし、内容は三部で構成されていて総合同会は徳光和夫さんと平野啓子さん、開会までの待ち時間は、「検証阪神淡路大震災と消防」等の映像を上映、音楽演奏や木遣り、練振り、はしご乗りの消防伝統演技で会場内の雰囲気盛り上げました。

天皇皇后両陛下のご臨席を賜り消防殉職者や震災等で亡くなられた方への黙祷後第一部の式典が始まりました。国歌斉唱、式辞、表彰、三権の長の祝辞と続き荘厳の内に終了した。

第二部は、菅原文太さん、平野啓子さんのナレーションで消防実技が始まりました。消防団ラッパ隊演奏、百年前の腕用ポンプ、五十年前のオート三輪ポンプ車や現代の消防団多機能車での放水、大地震発生を想定した東京ハイパーレスキュー隊救助工作車、はしご車、八輪駆動水陸両用バギー車等を会場内に入れての演技は圧巻でした。

団本部分団長行政視察に参加して

第16分団 分団長 佐野博章
ホテル玉や 経営

本年度の、団本部・分団長行政視察は、十一月二十五日に東京ドームで行われた消防団百二十年・自治体消防六十五周年記念大会に参加しました。

大会の趣旨は、大会を通じて、今日までのわが国消防の発展の道のりを振り返り、消防関係者がより一層の団結のもと、さらに精進を重ね、東日本大震災の教訓を活かして、わが国の安全を守る消防団等の一層の充実・発展を目指す決意を新たにしているものである。

第二部は、消防の士気高揚をテーマとして消防音楽隊、カライガード隊や幼年消防クラブ鼓笛隊の演奏や演技と続きAKB48の登場で「恋するフォーチュンクッキー」震災復興応援ソング「掌が語ること」の二曲を披露して会場全体のボルテージは最高潮に達した。消防応援団の皆さんの激励トークや水前寺清子さんによる消防応援歌「消防団二百六十五歩のマーチ」を全員で合唱し、消防未来宣言を採択して記念大会が終了した。

消防人としてこれからの消防団活動と分団運営を根っこで支えるものは、家族や隣人など地域の人々と、自分達の故郷を大切に思う気持ちであり「愛」です。これが現実の消防活動に展開されるために我々の知識・経験・技術や必要な装備の整備が重要です。そして「愛」は「力」になります。私にとって、強い消防団作りに向けて決意を改めて思った大会でした。

〈富士市消防団の沿革〉

明治元年、今泉村において江戸消防の組織を習った今泉村消防組が組織されたのをはじめとし各村各地区に消防組、火防組等が設けられていたが、明治二十七年勅令消防規則の制定、静岡県令消防規則の制定とともにそれぞれ従来の組織を統合、あるいは改組し公設消防組となり、吉原町では組頭、小頭五、消防手五七、合計六三人、水筒車一台をもって編成されたほか、各村とも消防組の編成が行われた。昭和十四年、警防団令の制定により各町村消防組は警防団に改組された。

旧吉原市は、各村との合併により幾多の変遷を経ながら吉原町警防団となり、昭和二十一年には六個分団二五〇人の団員で組織編成されたが、昭和二十二年消防団令の制定、ついで消防組法の制定施行により自治体消防の発足とともに昭和二十三年四月一日吉原市消防団として六個分団三三〇人の団員をもって組織し発足した。以来市勢の発展とともに市町村合併により新たに吉原市消防団となり二個分団六一〇人をもって組織編成された。

旧富士市は、加島村消防組から富士町消防組へ更に富士町警防団、富士町消防団となり、自治体消防発足とともに昭和二十三年四月一日富士町消防団として発足、以来市勢の発展及び合併により富士市消防団となり八個分団二九〇人の団員をもって組織編成された。

旧鷹岡村は、鷹岡村消防組から鷹岡町警防団となり自治体消防発足とともに昭和二十三年四月一日鷹岡町消防団となり五個分団一八八人の団員をもって組織編成された。

昭和四一年一月一日二市一町の合併とともに各町消防団を統合富士市消防団とし、一団二四個分団団員一〇一八八人、ポンプ車二五台をもって組織編成された。

以来、消防団活動の円滑、指揮命令系統の明確化を図るため、昭和四七年方面隊制度を採用、五方面隊に区分、團団長を方面隊長としたが更に活動の合理化を図るため、昭和四八年六方面隊に編成し、専任方面隊長を任命、一団六方面隊二四個分団編成とした。

昭和五七年四月一日広見地区に第二五分団を新設し、また、昭和五八年一〇月一日消防団員の定数を一〇一八八から八七〇〇人に改正した。昭和六二年四月一日富士南地区に第二六分団を新設するとともに、消防団員の定数を八七〇〇人から九〇〇〇人に改正し、一団六方面隊二六個分団編成とした。

平成二〇年一月一日富士川町との合併により、富士川町の消防団員を富士市消防団員として引き継ぐとともに、消防団員の定数を九〇〇〇人から一〇三〇〇人に改正し、現在一団七方面隊三一一個分団、ポンプ車三四台、指揮広報車一台、可搬式小型動力ポンプ三八台、団員八二八人をもち活動し消防任務の遂行に当たっている。

（二〇一三 消防年報より）



出初式

第11分団 団員 山本秀光
間門町 在住

一月十二日に、富士市消防出初式が行われました。

消防団に入団して以来、新年初めの恒例行事となっています。出初式では消防職団員が職務遂行への決意を新たにする為に、今年も消防職団員など千人以上が集まり、式典や分列行進、消防演技、一斉放水などが盛大に行われました。寒空の下で約一時間半の直立したままでの式典は毎年凍える思いの辛さがありますが、今年も地域のために貢献していかなければと気を引き締められました。

式典では、団員の勤続年数により表彰を受けますが、他にも永年消防活動を行って来た団員を支えた家族も表彰を受けています。永年の消防団活動を行うには、団員以外にも団員の家族の協力があり出来る事だと思えました。

また、分列行進、消防演技、一斉放水では地域の皆様に日頃の消防活動の成果を披露できたことは良かったです。

今年も地域の役に立てる様に、消防団員の一員として頑張ろうと思います。

出初式

第23分団 班長 横内信幸
久沢 在住



新年あけましておめでとございます。私が消防団に入団して十九回目となる富士市消防出初式が平成二十六年一月十二日、富士市役所駐車場にて開催されました。天候も曇りつない晴天に恵まれ、例年つま先が痛くなる程の寒さであったが、本年は、寒さも少し和らぎ暖かく感じました。

出初式といえば、入団後間もない頃、先輩団員に「何をさておいても式典に参加するものだ。新年の始まり、はじめ、決意、大事な消防行事であるから」と教えられた事を思い出します。式典で多くの来賓の方々よりご祝辞を頂き、近年発生されると予想される東海地震時の消防団に対する期待度は、益々高まっています。様々な訓練を通じて、団員又分団同士の連携協力、技術向上に努めるよう、決意を新たにしました。日ごろ、消防団活動に理解、協力を頂いている地域の人達が少しでも安心して暮らせるよう、防災活動に励んでいきます。

出初式が終わり夜更もスタートしたばかりの寒い時期ですが、今年一年、火災や災害の少ない平穏な年でありませう、心より祈りたいと思います。



9・1 総合防災訓練

九月一日防災訓練

第10分団 団員 牧野 朗
まきの治療所 勤務

本年より富士市消防団に入団させて頂き、第十分団の団員として、過日の防災訓練に参加しました。

まずは津波避難タワーにて住民の誘導にあたり、その後自衛隊の遭難者救助訓練を見学させて頂きました。

今回の訓練を終えて最も印象に残った事は、静岡県に生まれている皆さんが高い防災意識を持っておられるということです。

私は関西の出身ですが、阪神淡路大震災が起ころ以前は、地震に対する備えや防災にほとんど関心がなく、訓練などに参加したことはありませんでした。静岡県は東海地震や南海トラフ巨大地震の発生で被災が予測されている事、歴史上ほぼ一定の周期で大震災に見舞われているという事実がある

為、過去に起こった震災の経験を後世に伝える事で、少しでも被害を食い止めようという地域性があります。それらの要素が静岡県民の地震に対する高い防災意識に繋がっているものと思われまます。

私は消防団に入団したことで、地域の皆さんを災害から守る立場になりました。いつ起ころかもしれない震災から地域の皆さんを守るよう、今後は自身の防災意識を高めてまいります。

へり誘導訓練

第17分団 副分団長 高木 篤
ポリプラスチック 勤務

九月一日、我々十七分団は、西消防署南分署と合同で「ふじのくに田子の浦みなと公園」を会場とした「へりポートの安全管理及びへり誘導訓練」に参加しました。

今回の訓練は、国・県・市・防災関係機関・団体等の連携強化と、災害対応力向上を図ることを目的として実施されました。

会場では、消防本部清澄指揮官指示の下、へりポート用Hマーク表示の作成、吹流しの準備、部外者の侵入防止対応を確認後、在日米軍の中型ヘリ二機と、航空自衛隊浜松救難隊の中型ヘリ一機の誘導を実施しました。

十七分団からは、大久保分団長が白旗を振ってパイロットへの誘導合図を行い、残りの団員は侵入防止区域での警戒を実施しました。

会場には、アマチュアカメラマンや地震防災訓練を終えた地域の方々が大勢見学に来ており、侵入防止区域での警戒は予想以上に大変でした。(大変さはご想像にお任せします)各地で起ころっている自然災害や、いつ起ころかわからない大地震に備え、この様な消防署との連携訓練を実施したことは大変意義のある訓練であったと実感しました。

機会があるごとに分署との連携を行い、防災意識の高揚を図っていききたいと思います。

訓練大会

消防団魂！小型ポンプ操法訓練

第2分団 団員 池原秀夫
荒田島 在住

富士市で活躍されている消防団員は一分団から三十一分団まで合わせ約八百五十人だそうです。

その中で、各分団には選抜して通れない操法大会への参加があり、選手の選出があります。

私も、第二分団長を始め団員の皆さんから期待を込めた推薦を受け、選手として大会に参加させて頂ける事となりました。

そして、一番員 羽田君、二番員 久保田君、三番員 屋部君、補助員 井出君ら同士が揃い第一方面隊の小型ポンプ操法チームが誕生しました。

春先から始まった操法練習の方針は、①規律 ②操法技術 ③チームワーク 以上の強化でした。

我々選手も応援の団員の皆さんも、ポンプ操法に驚く程熱い指導員の皆さんも、それぞれ家族に負担をかけ、大切な時間を費



やし富士市消防団の操法のレベルアップを目指して誠に熱心でやり甲斐のある数ヶ月を皆で共有しました。

過去に選手経験が有る団員の皆さんは数知れず・・・消防団の歴史はそのまま操法の歴史である事を練習の休憩中、先輩からのなにげないアドバイスの一言で気が付かされた事や、失敗続きで自信喪失、覇気がない操法には仲間が勇気を与えてくれたことは何にも替えがたい本当の仲間を感じる事ができました。

富士市消防団、約八百五十人の仲間の皆さん誠に有難うございました。

この思いを胸に、今後の消防団活動をさらに充実したものにしりたいと心に誓いました。

新入団員教育

新入団員教育を終えて

第1分団 団員 望月宏輝
吉原2丁目 在住

初めて消防団の活動を間近で見たのは、三年前の朝方でした。黒い煙が立ち込める中、必死になって消火活動をしている姿に、又地域を自分達で守るといふ強い姿に心打



たれました。それから二年後の七月一日、第一分団に入団しました。入団後は佐野分団長始め諸先輩方から優しくご指導頂き、馴れ始めた頃に新入団員教育の事を伺いました。

五月二十六日、富士市役所にて新入団員教育が行われました。第一分団からは私を含めて二人の新入団員が参加しました。

午前中の講義では、消防団員の責任と心構え、消防団活動の概要を聞く事ができ、大変参考になりました。

午後からは、部隊訓練でした。訓練儀式は入団以来、先輩方からご指導頂いていたのでスムーズに行う事ができたと思います。

ポンプ操法、小型ポンプ操法では、指導員の方達が模範演技を披露して下さい、費やした時間と努力の大きさに、ただただ圧倒されるばかりでした。実際の火災現場へ出た時に足手まといにならない様に、これからも訓練を重ねなくてはと痛感しました。

最後に代表で修了証を頂いた際に少し手が震えましたが、これで私も消防団員としてスタートラインに立てたと実感しました。

今回学んだ事を忘れずに、これからの日々の消防団活動に役立て、地域防災を心がけて行きます。



父さんが消防に入って

第21分団 団員家族 村松紗帆
市立鷹岡中学校 2年

お父さんは、私が幼稚園の年長の時に消防に入りました。妹がまだ生まれたばかりでお母さんが忙しい時などお父さんと消防の人達がよく遊んでくれた事を覚えています。

消防まつりの準備では、看板の絵を描いたり、たまねぎやにんじんの皮むきなどを手伝っています。あきてきた時などは、手の空いているおじさん達が遊んでくれます。当日は、らくがきせんべいに砂糖をつけたりする事を手伝ったりしています。お父さんが警備に行ったり、お母さんがお店の手伝いをして忙しい時は、手の空いているおじさん達が、いつも妹達と一緒に色々なお店に連れて行ってくれます。だから毎年、消防まつりが楽しみです。

近所に消防のおじさんの家があります。とても私達をかわいがつてくれて、おいしい野菜やお菓子を持ってきてくれたりします。おじさんの家には、小さな子供はいないのに、私と妹達と遊びに行くと、嫌な顔もせず、かわいがつてくれるのでとてもうれしいです。又、お父さんが消防団に入っ

た事で、沢山の優しいおじさんやその家族と知り合いになり、学校の帰り等に会ったりするとよく声をかけてくれます。地震の時には、我が家が無事だったので、地域の安全のために見回りに行ったりして、私達は少し怖かったけど、地域に役立つというお父さんを見てすごいなと思いました。

地域の防災訓練の時には、色々な人に教えている姿がいつもかっこよく見えます。そしてどんな時でも大丈夫と安心できます。

これからも、地域の安全の為にがんばってもらいたい。大好きなお父さんでいてもらいたいです。



消防団員姿の父

第27分団 団員家族 齋藤佑介
中央医療健康大学校 2年

私の父は、私が子供の頃から消防団に所属しております。いつもは、温厚で穏やかな父ですが、火事のサイレンが鳴り放送が流れると一転勇ましい表情に変わり、消防服に急いで着替え、火事現場に向かっています。更に消防の大会がある時は、大会の日までは毎日のように遅くまで練習をして帰宅します。地域の為に消防団活動に

努める父を見て、私は誇りに思います。

また、父だけでなく同じ二十七分団で活躍している方々も尊敬しています。毎年のように消防まつりのお手伝いをさせて頂きますが、火事以外の活動も一生懸命に取り組んでいる姿がとても印象的でした。

日々自分の仕事をしながらの消防団活動は、大変な事だと思いますが、これからは地域の為の人々の為に頑張っていたきたいと思えます。私も社会人になったら地域や人の為になる活動をしていきたいと思えます。



親睦



ソフトボール大会

第6分団 団員 望月 修
富士フィルム㈱ 勤務

九月二十九日、富士川の河川敷で富士市消防団のソフトボール大会が行われました。やや風はありましたが気持ちの良い快晴でした。

消防団のソフトボール大会は入団以来、自身初の参加となります。ソフトボールをやるのは小学生の時以来、しかもグローブは借り物・・・開会式後、試合までの空き時間に全員でキャッチボールやバッティング練習をし、足を引っ張る事を心配する気持ちのまま、いざ本番。試合は冗談交じりのヤジが飛び交う中、和気あいあいと進んで行きました。仲間のフライングプレーに歓声をあげたり、珍プレーを見て大笑いをする内に緊張感も解けて、試合途中から不安が嘘のようになくなっていました。

自分自身も三回の打席が回り、相手のエラー等に助けられながらもすべて出塁。試合は最終回で逆転され、惜しくも負けてしまいました。すがすがしい気持ちと充実感で



いっぱいでした。帰りの車の中で、来年は自分のグローブを買って試合に臨もうと思いました。

久しぶりのソフトボール大会

第20分団 部長 井出文芳
岩本 在住

九月二十九日(日) 晴天のもと四年ぶりの消防団ソフトボール大会が行なわれました。我々二十分団では、選手の確保は出来ましたが、野球・ソフトボールの経験者が少なくなってきました。

大会前、我々が所属する第四方面隊で、二回の練習を行ない、今大会に望みました。開会式・始球式が行なわれ、第一試合からの対戦となりました。一回戦はスムーズに勝ち進み、二回戦は団本部との対戦でした。「よし、この試合も勝てそうだな」と思ったのが大きな間違いで、四回までに八対一の大差でリードされてしまいました。ところが、プロ野球などでよく耳にする「本日のヒーロー」が我が分団に現れ、何とサヨナラゲームにて勝つことが出来ました。

三回戦も波乱の試合となり十対十の引き分けで終了、くじ引きにて勝利し、流れに乗ったところで決勝戦に挑みました。さすがに皆の体力が続かなくなり、足がつったり、筋肉痛を訴える団員が続出、それでも皆の頑張りで何とか勝利し、優勝することが出来ました。今回の大会では「逆転勝ち・引き分けのくじ引き勝ち」と、波乱にとんだ試合が続きましたが、団員全員が一丸となって勝利したのだと思います。また、家族や控え選手の方も最後まで応援いただきありがとうございました。

今後も、消防団員として地域の安心・安全を守るよう、「今回の守備で見たダブルプレー」のごとく、連係した行動にて活躍して行きたいと思えます。最後に、今回の優勝商品の自転車、どのように使用するか迷っているところです。



初めての消防まつり

第9分団 団員 齊藤竜巳
渡辺測量事務所 勤務



十一月十日消防まつりが開かれました。私の所属する九分団は、毎年恒例のボン菓子と今回新たな試みとして豚汁を出店することになりました。前日から準備を行い、普段は台所に立つことの無い男達がぎこちなく包丁やピラーを持ち「これ、どうやって切る？大きさは？」などと悪戦苦闘しながら食材を切り、下準備を行いました。当日に味付けを行い、初めて作ったとは思えないほど美味しい出来に仕上がりました。寒い中、完売することが出来ました。ボン菓子と言えば、なんと言っても爆発音。爆発を知らせるピーという笛の合図の後に、「ボン！」とものすごい爆発音が鳴り響き、近くに居た人は笛の音が鳴るたびに耳をふさぎ、ドキドキしながらその時を過ごします。笛の合図を聞いて子供達が

すぐに大勢集まって来るので、急いで水あめを絡ませ完成です。当日は肌寒く、あまりいい天気とは言えず最後には雨にも降られてしまいました。消防団員になって初めての消防まつりを終えて、普段の消防活動とはまた違ったチームワークや団結力を感じました。今後も、地域の皆様の役に立てるように、また火災が少しでも減るように防災活動を頑張っていきたいと思えます。前日の天気予報では「午後から雨が降る」この予報を聞いて、我が分団は短期決戦で当日を望む事にした。第二十七回富士市消防まつり第三十分団の出し物は子供達に大人気の「くじ引き」と幅広い世代に支持を持つ「いそべ焼き(餅)」。そしてアタルト層の小腹を満足させるカツオ風味の「焼きうどん」で体制を整えた。くじは玩具二百個分、いそべ焼きは十kg分の餅、焼きうどんは二百食分、そしてそれに伴う食材等を各担当に分かれ、前日夜半まで大騒ぎで準備をし、万全を期した。つまりだった。

消防団員としての消防まつり

第30分団 団員 中村大助
(有)かやの里 勤務



当日は、朝七時に車庫を出発してテントや各機材設置等を行った。さすがは富士の消防団体だと思わせる消防車両の数々。富士川町時代の消防まつりには行ったが、富士市になってからは初めての事で、消防音楽隊や消防団のラッパ隊などの演奏は見事なものだった。自分が富士市の消防関係者であることを誇りに思った。さて、我が三十分団のテントだが、売れ行きは上々。隣の分団が餅つきをしていたにも拘らず、いそべ焼きの客層は切れ目なく続いた。また、くじ引きも親子連れなどが殺到していた。しかし、匂い・味・値段・作り手・売り子・看板、全てが万全を期した焼きうどんが売れない。何度も検証したが、原因は、天から舞い降りる雨にあると判断された。傘を持った客はその場で食べる機会が断然に少ない。その場で食べないとリピーターが来ない。味が勝負ができない。片手で食せるファーストフード的な物の方が天候に左右されなかった。しかし、三十分団が一致団結して行った消防まつりは先輩団員の底力を見せてくれた。秋の火災予防週間と併合して行われた為に、夜警の後の夜食は味・匂いその他の面で完璧な焼きうどんが待っていた事は言うまでもない。そして反省会は果てしなく続いた。次の三十分団に乞うご期待！

消防まつり出店コンクール 優秀分団

- 第11分団 草もち
- 第23分団 ラーメン
- 第12分団 焼きそば、大判焼き
フランクフルト
- 第25分団 綿菓子、かき氷



防火ポスター優秀賞受賞者 (中学生)



防火ポスター優秀賞受賞者 (小学生)

新詰所 新ポンプ車



第16分団 副分団長 青木勝也

第16分団 副分団長 青木勝也
薬品 勤務

この程、我が第十六分団の詰所が、駅南地区下横割南地区に移転新築されます。これより、ここが住民の安心安全を守る拠点となります。新詰所の建築に当たり、これからの活動内容を考慮して、団員からの要望も多数寄せられました。トイレの問題は、富士市消防団にも女性の平成二十六年入団希望者があり、我が分団も今後の女性団員の入団に備え、女性用トイレが富士市の消防団の詰所では初めて作られることとなりました。また、インターネット配線、床面、詰所への出入口の位置、鍵の位置、一階二階の使用分けなど様々な意見が出され、可能な限り取り入れてもらい、これからの新しい消防団詰所となることと

期待しています。

さて、新年となり、現詰所の整理、新詰所への移転と多忙の日々となることですが、団員が協力し合い、三月十六日の落成式を迎えたいと思っています。現詰所の整理で改めて気付いたことは、我々第十六分団の先輩の操法大会においての栄誉を示す表彰状の数々で、伝統の第十六分団といわれる由縁を改めて感じたことです。我々も先輩の方々に負けることなく、これからも頑張っていかなければと痛感しました。新詰所の建築、新しい消防車、消防器具の購入など、我々消防団は多額の予算をいただき、ボランティアとはいえず、消防活動を始め、市民の安心安全を真剣に守っていかねばならないと日々感じている次第です。

新消防ポンプ自動車を迎えて

第15分団分団長 西川泰彦
富士西金物株式会社 経営

昨年十二月十七日、引渡し式を経て我が分団では新しい消防ポンプ自動車を迎えることになった。自分が入団した時すでにあったポンプ車から数えて今回の新ポンプ車が三台目になる。自分は十五分団で第二十代目という節目の分団長である。その在籍時に三台目のポンプ車に遭遇するといふめぐり合わせに自分の運の強さを思わずにはいられない。

何はともあれ、これも十五分団を築いてこられた先輩諸氏の汗と涙と苦勞の積み重ねがあったからこそと感謝している。

自分は先輩方の思いを受け継いで十五分団の伝統を守りつつ、また時代に即した分団の在り方を求めて日々を送っていると自負している。もちろん、これからも精進していかなければならない。分団を去るときには思い残すことなど何もないと言いつつ、自分でありたいと考えている。

新消防ポンプ自動車の披露式は米の宮公園で行なわれる。ポンプ車操法を市民に公



開し観ていただくことで少しでも消防団を知っていただきたいと思っております。その披露を目前に控えてポンプ車操法を第四方面隊の指導員と前回の第四方面隊の出場隊メンバーにマンツーマンで手取り足とり指導していただいている。これは十五分団では操法経験者が少なく、ほとんど新人メンバーで行なわなければならない事情もあつたことだが、同時に方面隊の横のつながりを築く形となっている。はたして披露式に間に合うかどうか。この原稿が消防団だよりに掲載される時にはすでに終わっているのだが、これまでの最高のパフォーマンスを演じてくれることを分団長としては確信している。

今後二十年はこの新ポンプ車と共に地域の安全と暮らしを守りつつ、新たな十五分団の歴史を歩んでいきたい。

新型ポンプ車配備

第28分団 分団長 望月幸博
東海アルミ箔株式会社 勤務

昨年、十二月十七日、新しいポンプ車が二十八分団に配備されました。二十八分団としては二十一年ぶりの新車です。

さすがに、二十年前の車体とは違い、扱いやすさが格段に上がり、車体も小さくなったため、今まで運転を敬遠していた団員も、オートマチックになった新型では、積極的に運転するようになり、実際の出勤でも、運用面でも幅広い対応が可能になりました。

私も機関員として、前のポンプ車を運転していましたが、大きな車体のギアチェンジが苦手で、不慣れた車体の取り回しに手こずり、何度か同乗していた他の団員に、怖い思いをさせたこともありまして、「あれは怖かった」と、最近になって、あの時乗っていた団員が打ち明けてくれました。悪いことをしたなと思いましたが、もう新しいポンプ車なら大丈夫でしょう(笑)

とつづきにくさが無くなり、また、現在の免許制度にマッチしたポンプ車により、これからの世代が活躍してくれると思います。



第5分団 団員 築地弘
西木の宮町 在住

富士市消防団では毎年一月から二月までの約二か月間を特別警戒期間として夜警を行っております。

我が五分団は班長を中心に「チーム三人」とし、全八チームで夜警活動をしています。夜八時から九時までの約一時間、管轄地域を赤色灯を回し鐘を鳴らしながらポンプ車で巡回します。

地域住民の方がこの鐘の音を聞く事で火災予防につながればと思います。

細い路地やポンプ車が停車中の時には鐘の音を小さくし、騒音問題にならぬよう心掛けています。

巡回終了後は夜十一時まで詰所で待機します。

年齢や職業の違う団員同士で過ごすわけですが、普段接する事のない世代の人達と交流する事で、地域の絆を深める事ができ、入団して本当に良かったなと思います。これからも地域の人が安心して暮らせるように頑張っていきたいと思っております。



第14分団 団員 山本真希
信和製作所 勤務

消防団員を拝命してから九度目の冬が来ました。秋の火災予防週間が過ぎると夜警巡回が始まります。十二月から二月までの足掛け三ヶ月は、寒さが厳しい時期ですが、同時に火災件数が多くなる時期でもあります。

消防団員になって初めて夜警巡回を行なった時には、気を張りすぎて、終わる頃にはクタクタになっていたのも今となっては良い思い出です。

この数年間で経験してきた数ある消防団



行事の中で、夜警巡回が一番好きな行事になりました。その理由の一つが、赤色灯を回しながらポンプ車で巡回することで地域の防犯に役立っているのではないかと感じられるからです。

「自分達の町は自分達で守る」という消防団が掲げる郷土愛護の精神に最も近い活動が、この夜警巡回だと僕は思っています。

また巡回中に地域の皆様より頂ける「ご苦勞様」の労いの言葉は、仕事の疲れさえ忘れられる何よりの励みとなります。

巡回の手順や仕度など、いままでも先輩方から教わる事ばかりだった僕ですが、もうすぐ教える立場になるので、気を新たに引き締めて、今年の夜警巡回を行なっていきたいと思っています。

AEDを持ってきてください

応急手当普及員会が発足

団本部 消防部長 坂東満壽雄
伝法町2 在住

今年度、応急手当普及員会が発足しました。この会は、傷病者が発生した場合、その場に居合わせた人が応急手当を速やかにを行い、救急隊に引き継げば尊い命が多く救われる事から、普通救命講習修了者を育成することを目的としています。この普通救命講習を実施できる資格者が応急手当普及員です。

例年、消防団員の普通救命講習を消防署員の皆さんにお願いしておりましたが、今年度から消防団員の応急手当普及員が、この仕事を担うことになりました。消防団員八百五十名のほぼ全員が普通救命講習を持っています。但し二年から三年毎の再講習が義務付けられています。しかし、現状は、各方面隊で年間二〇名、団全体で年一四〇名の再講習しか実施できていません。団員全員の再講習をするのに、六年掛かるため、二倍の再講習が必要です。

平成二十年より五年掛かりで十九名の有資格者が養成されましたが、講習を担当する有資格者の絶対数が足りません。この状況を、なんとかしようとして十六名の団員が手を挙げ、応急手当普及員認定をとっていただきました。一気に三十五名の有資格者集団になり、年間三百名の普通救命講習は可能となりましたが、如何せん成り立ての新米のため今年度は講習を行ないながら自己研修に努めています。

今後は、応急手当普及員の更なる人員の充実を図りながら、「他人を救おうとする社会が自分を救う」を啓蒙し続けるつもりです。

大規模災害が叫ばれ、その備えをどう構築するか考える時、消防団のマンパワーは、すばらしい宝物です。普通救命講習が

消防団活動の大きな柱に成長するように努力したいと思っております。



幼年消防クラブ

ハチドリの一滴

富士市幼年消防クラブ会長
富士保育園園長 後藤弘明

南米の絵本に、ハチドリの一滴というお話があります。内容は「ある日、森に火事が起こりました。森の動物たちはこぞ逃げましたが、一羽のハチドリだけが森と川を行ったり来たりしています。逃げたみんなは、何をしているのだろうとよく見ると、ハチドリは川の水を口のためにためて森に戻り、一滴、火に落としていきます。それを見ていた動物たちは、そんなことしてなんになるのかと笑いました。ハチドリは「私は、私にできることをしているの」と、再び森に飛んでいく」というお話です。勿論、保育園で園児が直接災害に対処するということではありませんし、安全な避難が最優先となります。

先の東日本大震災では、東北各地の保育園での在園児の死亡は、幸いにして一件もなかったそうです。これも日頃からの園での避難訓練の賜物であったからでしょう。

五感も判断力も運動能力も、まだまだ発達途上の子どもたちにとって、自分で自分の命を守ることは難しいことです。



子どもたちに、安全な避難についての訓練を、継続しておこなうことの大切さを伝える努力をしていかなければと思うこの頃です。

富士市消防団協力事業所



富士市消防団協力事業所

J A 富士市

J A 富士市は富士市全域を営業エリアとし、本店の他二十一支店、ふれあいセンター、J A やすらぎ会館などの店舗を構え、約三万人の組合員数を有するJ A です。

当J A では「組合員・地域社会の大切な拠りどころとなる協同組合をめざす」という経営理念のもと、職員の地域貢献活動への参加を奨励しています。特に、災害対応にあたることはもとより、地域コミュニティの維持・振興にも大きな役割を果たしている消防団活動への協力は大変重要なことだと認識しており、消防団員にたいして奨励措置を設けています。現在十四名の職員が消防団員として活動していますが、勤務時間中の火災などでも優先的に出勤を認め、団員一人一人が地域貢献の意識を持って活動に参加しています。

また、九月一日防災の日に合わせて実施される全職員参加の防災訓練では、消防団に所属する職員が中心となって放水を含む消火訓練を行なっています。現在、当J A は

富士市消防団協力事業所表示制度

事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制がより一層充実されることを目的とした制度で、複数の従業員を消防団員として入団させている事業所や、水火災等の災害時に事業所の資機材を消防団に提供する等の協力をするなど、消防団活動に積極的に協力している事業所その他の団体に対して、消防団協力事業所表示証を交付します。

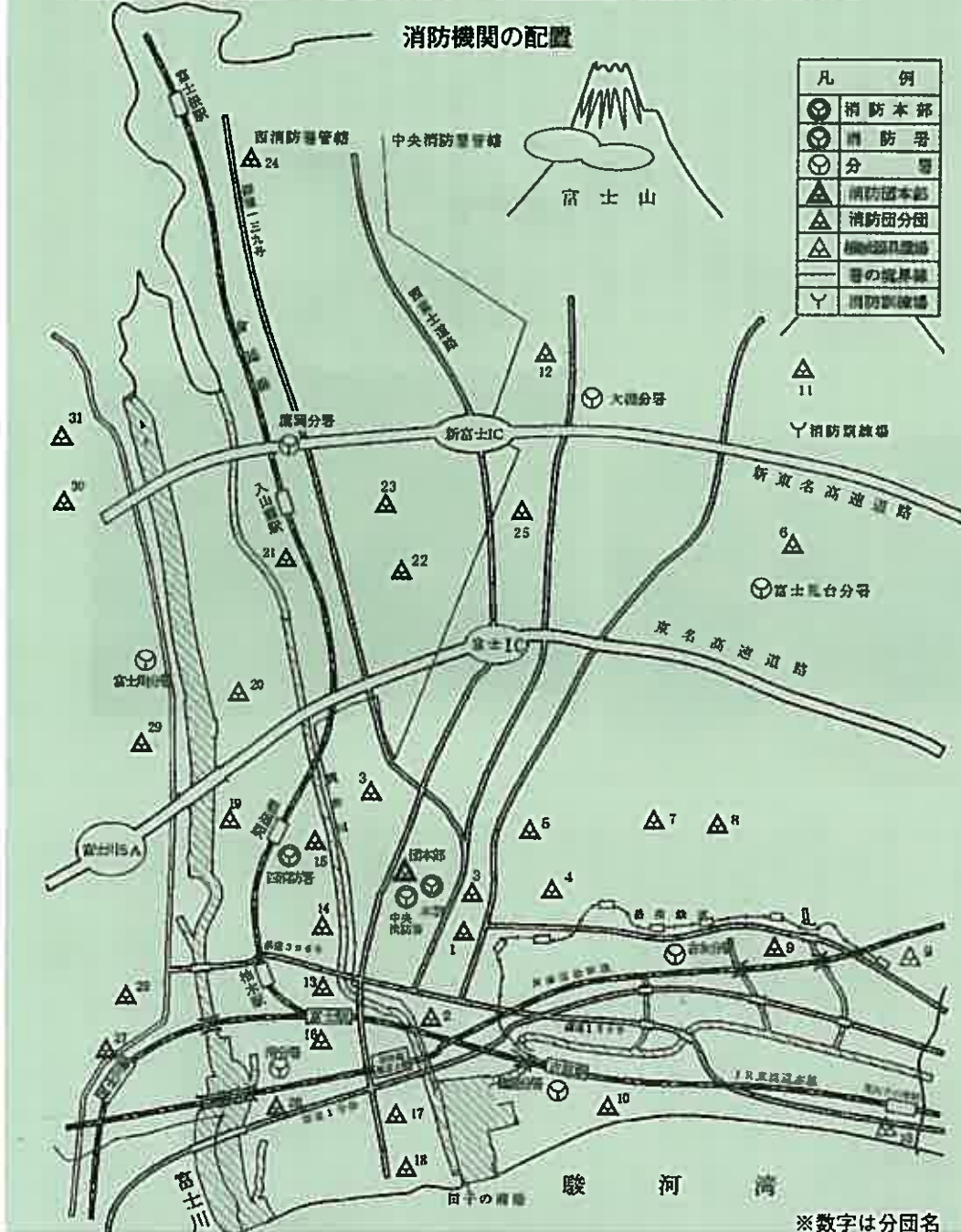
また、認定を受けた事業所は、取得した消防団協力事業所表示証を敷地、建物等に表示できる他、パンフレット、チラシ、事業所ウェブサイト等にてPRすることができ、事業所のイメージアップにもつながります。



このような消防団活動に対する理解と協力が認められ、「富士市消防団協力事業所」の認定を頂いております。
 ここ数年、日本中でさまざまな大規模災害が発生しており、地域における消防団活動の重要性が注目されています。今後も地域社会に貢献できるJAをめざし、地域防災体制の一層の充実に寄与するよう、消防団活動に積極的に協力していきたいと思っております。

消防団の管轄地区

—富士市の各地区で地域のために、消防団は活躍しています。—



富士市消防団協力事業所

平成 26 年 3 月現在

- 1 富士市農業協同組合
- 2 鈴木工業
- 3 富士トラック株式会社
- 4 株式会社三和工務店
- 5 足場屋 勇仁

※登録順

“あなたの「力」が必要です!!”

消防団員募集

あなたの町を自らの手で守りませんか
 地域の「絆」で救われる命があります
 問合せ先
 消防総務課消防団担当、または各消防分団
 電話：0545-55-2852 (消防総務課)

- 第1方面隊 (第1・2・3・25分団)
管轄地区 吉原、伝法、広見、青葉台の一部
- 第2方面隊 (第4・5・6・7・12分団)
管轄地区 今泉、原田、富士見台、神戸、青葉台の一部、大淵
- 第3方面隊 (第8・9・10・11分団)
管轄地区 吉永、須津、浮島、元吉原、吉永北
- 第4方面隊 (第13・14・15・19・20分団)
管轄地区 富士駅北1・2、富士北、岩松、岩松北
- 第5方面隊 (第16・17・18・26分団)
管轄地区 富士駅南、田子浦、富士南
- 第6方面隊 (第21・22・23・24分団)
管轄地区 鷹岡、天間、丘
- 第7方面隊 (第27・28・29・30・31分団)
管轄地区 富士川、松野

編集後記

消防団だよりを発行するにあたり団員の皆様、団員ご家族の皆様より多数の原稿を今年もお寄せいただくことが出来ました。寄稿していただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。

さて、平成二十五年は、消防団百二十年、自治体消防六十五周年と記念すべき年となりました。消防団は江戸時代の町火消から始まり、長い歴史の中で様々な変貌を遂げてきましたが、どの時代でも地域に密着し「自らの町は自らで守る」の精神の基、活動を続けてまいりました。

近年、全国的にも消防団員数の減少が進み、今後も起こりうる大災害に対応できる心配です。これまでの歴史を受け継ぎ、また新たな歴史を作るため、この消防団だよりが団員各位の意識の高揚と団結心が養われることを祈念すると共に、市民の皆様が消防団活動を少しでも理解していただき一人でも多くの消防団員を増やすことができるようご協力をいただければと願います。

今後も皆様に親しまれる紙面作り而努力して参りますのでご支援、ご協力をお願い申し上げます。

広報紙編集委員長

富士市消防団広報紙編集委員会

委員長 団本部 第二方面隊長 長尾 文彦

副委員長 団本部 副総務部長 佐藤 重孝

委員 第二十五分団 班長 鈴木 信一

第四分団 係長 前田 和徳

第十一分団 係長 石川 和彦

第十三分団 班長 福島耕一郎

第二十六分団 係長 齊藤 正道

第二十二分団 団員 斎藤 利和

第三十二分団 係長 神戸 邦明